

## 寄 書

## 鉱 物 漫 歩 (その3)

## 3. 郷土の鉱物

服 部 郁 夫

会員諸氏には郷土の花というのを御承知のことと思う。これはアメリカの State flower を真似したもので、1955年、植物学の泰斗、故牧野富太郎博士と本田正次博士が各都道府県の植物——主として名花を撰び、たとえば北海道は鈴蘭、青森県は林檎、岩手県は桐、秋田県は萩という風にその地方を代表させたものである。もっとも、分布の広い植物のことであるから中々むつかしいところもあり、たとえば埼玉県の桜草のように県全体に因するものでなく、浮間ヶ原の自生地という特定の地域で県を代表しているところも少ない。

ところが先頃、新聞紙をよんでいたら、これに因んで郷土の鳥(例、兵庫県の鶺鴒<sup>ツグナトリ</sup>、新潟県の朱鷺<sup>トビ</sup>等)、郷土の獣(例、香川県の獺<sup>クナ</sup>等)、郷土の昆虫(岐阜県の岐阜蝶等)等を選ぼうという試みが載っていた。そういえばアメリカにも State bird というのがあるのだから、これも悪くはないが、日本全部でこれ等を選定することは中々むつかしく、むしろ郷土の花(植物)に対する郷土の動物として、獣鳥魚虫の差別なくえらんた方が楽でないかと考えられる。

さて、郷土の植物があり、今また郷土の動物が出来ようとしているのに郷土の鉱物のないのは誠に不自然であり、日本鉱物趣味の会の会員たるものの黙視出来ぬところである。そこで徒然なるままに、都道府県を代表する鉱物を選び、これを郷土の鉱物(私案)として諸賢の前に御披露することとした。もとより鉱物はその産状からして、その県全体に広く分布し、他の県では産出に乏しいというものはなく、浮間ヶ原の桜草のようにその地方の一部に産するものを代表としてあげることになるのも止むを得ない。また現在ほとんど産出せぬようなものをも選ばねばならぬ場合もあったが、鉱物は地下にあることだから絶産といっても、又産出があることも予想されるので、あまり気にしないことにする。

植物でも動物でもそうであるが、鉱物も地方によって候補が沢山あって取捨に迷うこともあれば、その反対に特定のものがなくて苦しい場合もある。ただ、鉱物は動植物に比し有力な新産地発見の可能性が大きいので、それによっては現在のもよりさらに適当なものの産出が知られ、現行にとってかわることもあり得る。若し、静岡大学の鮫島博士の推察があたって、千葉県下の嶺岡山から金剛石が発見されたら、この

鉱物の少い県でむりに「こはく」を担ぎ出すこともなかりう。

従って以下に掲げたものも、単なる私案であり、会員諸氏の意向で直ちに訂正されるものもあろうし、将来の発見によって改正されるべきものもあろう。いずれにしても、動物、植物のように固定したものでないことをおことわりしておく。

北海道〔めのう〕古くから知られている計りでなく、わが国の産額の大半を産産めのが占めている点からでもこれを選んだ。ほかに手稲石、轟石（イリドスミン）などあり、ことに手稲石は現在までに手稲鉱山以外は世界のどこを探ねても見当らぬという珍種で、色も美しいが、やはりめのうの庶民的なところをとりたい。黒耀石はめのうに匹敵するこの地の名産だが、岩石は一応除くことにする。

青森県〔雑色碧玉〕いわゆる錦石の名で呼ばれる碧玉系鉱物で色彩の変化に富んだ美しさと、沿海に広く分布する点を推したい。青森県に奥戸、湯ノ沢鉱山と二ヶ所の産地をもち、他地方に産出しないヨルダン鉱もあるが特殊なもので、錦石の名声には程遠い。

岩手県〔小藤石〕一寸特殊性が強いが、朝鮮の笏洞金鉱から渡辺武男博士が新鉱物として記載して以来、その愛弟子である加藤昭博士がこの地から劇的な発見をして、一躍、北上地方、上根市の名を鉱物学界に浮び上らせた。このほかやはり渡辺博士を中心として研究された野田玉川鉱山産の新鉱物、吉村石、原田石、はじめ好地石として記載されたズニ石、越喜来の紅電気石等があるが、学術的意義から小藤石に落着いた。しかし、別の考え方からすると釜石鉱山の磁鉄鉱、仙人鉱山の赤鉄鉱なども一応候補となる。

宮城県〔紫水晶〕小原の紫水晶のほのぼのと匂う藤紫色は、朝鮮のものが天然ではあくどい色に見えるのと異り、いかにも優雅な感がある。仙台市広瀬川の高温度石英、大谷鉱山のテルル蒼鉛鉱はともにわが国最初の産出がここで知られたものであるが、紫水晶の美しさには一歩ゆずらねばならない。

秋田県〔北投石〕この県は候補が多すぎて選択になやんだ。曰く荒川鉱山の三角式黄銅鉱、日三市鉱山のベセリ石（荒川石）、太良鉱山や阿仁鉱山の方鉛鉱、小坂鉱山のコペリン、秋の宮の魚卵状珪石（俗称ブリコ石）等。しかし、歴史的価値からいっても北投石が最有力であろう。

山形県〔海緑石〕申しわけないがこの県は特産に乏しく、鬼坂峠の海緑石に落付いた。これに伴う碧玉も候補の一つであるが、碧玉といえども島根県か新潟にとられてしまう。若し同一種が二つの地方で有効とすれば（郷土の花にはなる）、碧玉がよいかも知れない。

福島県〔阿武隈石〕この県も宝坂のたんぱく石、羽山のルドウィヒ石、水晶山のイットリア石、トロゴム石、石川地方のモナズ石、ゼノタイム、コロンブ石、サマルスキー石、石川石はじめ多士済々で、結局阿武隈石が漁夫の利を占めた。

茨城県〔董青石〕日立鉱山の董青石は世界的に立派なもので、その研究の歴史も古い。この県では北宮田の玉髓のほかあまり候補となるべきものがない。

栃木県〔藍鉄鉱〕足尾鉱山の藍鉄鉱は美しい色と結晶で世界的に有名である。このほか足尾鉱山の燐灰石、加蘇鉱山の加蘇長石、西沢鉱山のマテルダ鉱、久良沢鉱山のパイロスマライト等も考えられる。

歴史的な点では渡良瀬川の桜石もよいのだが、之は京都府にゆづることにした。

群馬県〔鶏冠石〕葱で有名な下仁田近くの西ノ牧（ニシノマキ）鉱山（以前は旧村名に因み西牧と記しサイモクとよませていた）から出る鶏冠石は美しい暗紅色の結晶で、共出の石黄の橙黄色と相俟って夢幻的の美しきをかもし出している。外に草津鉱山の鉄明ばん石や、中丸（旧八幡）鉱山の四面銅鉱もあるが、西ノ牧が宮城県文字鉱山とならんで特殊な鶏冠石鉱山であることからしても之をとりたい。

埼玉県〔車骨鉱〕秩父鉱山をもつこの県では閃亜鉛鉱、毛鉱、バスブ石、ザンソフイル石があり、また朝口根のパンペリ石、長瀬の紅れん石、スチルプノメレーン等も一応考えられるが、車骨鉱がコレクターのあこがれの的であることから之にきめた。

東京都〔灰長石〕三宅島の灰長石は古くからデーナの鉱物書にも記載されており、世界におけるこの鉱物の最も有名な産地である。産状の面白さ、産量の豊富さ、結晶の美しさなどで文句のつけようがない。ほかに三宅島のかんらん石や、小笠原島の古銅輝石などもあるが。

千葉県〔こはく〕鉱物に関しては全くお手あげの県である。銚子のあられ石、平群（ヘグリ）のソーダ珪灰石、鴨川の沸石類などあるが、いずれも代表と認めがたい。いっそのこと砂鉄をと思ったが、之もどうかと思い、結局、銚子市外川（トガワ）の中生層中に産するこはくを登場させた。このこはくは密黄色で質も脆くなく、上質のもは久慈や撫順を超越し、本場のバルト海のものに匹敵する。

神奈川県〔湯河原沸石〕玄倉の燐灰石、常沢のバスブ石もあるが、湯河原沸石は産地が温泉街の名勝地であることと、地元の宣伝があって著名となってしまった。発見者の桜井欽一博士は、「あれを県の石とする人がいて閉口してる」とこぼしていた。氏によると箱根の珪華（蛇骨）の方がよいとのこと。

新潟県〔ひすい〕間瀬の魚眼石、万沸石、佐渡鉱山の金、佐渡の碧玉（赤玉）などがあるが小滝地方のひすいには及ぶべくもない。

富山県〔十字石〕立山新湯温泉の魚卵状珪石と宇奈月の十字石が最後までせり合ったが、先日の新聞に「県の名石、十字石を巡って町役場と学校が係争中」とあったので、騒動をおこすくらい石ならとこちらに天秤が傾いた。ただし、石でのゴタゴタはほめられることではないが。

石川県〔たんぱく石〕赤瀬のものを細工して那谷で販売している。ここのたんぱく石は淡青色で時に燦光を有し、わが国のオパール三大産地——福島県塩坂、石川県赤瀬、長崎県波佐見——の一つである。このほか、中宮（チュウグウ）鉱山のヘッス

鉱、倉谷鉱山の毛鉱、車骨鉱等があるが、いずれも絶産と思われるし、産地も僻地で資格に乏しい。

福井県〔自然砒〕赤谷鉱山の金米糖とよばれる自然砒の群晶は世界的のもので、他に対立するものが見当たらない。

山梨県〔水晶〕歴史的にいっても問題はなく、鉱物に興味をもたぬ人でもうなずけよう。ほかに乙女鉱山の灰重石、ライン鉱、夜子沢の石こうなどがあるが。

長野県〔あられ状方解石〕旧幕時代から知られ、学術的意義も深く、天然記念物でもある。ほかに浦里の玄能石、前山の中性長石（ちかい石）、武石の緑れん石（焼餅石）、和田峠のざくろ石、新しいところで、山口村の山口石、信濃境（池袋）の角閃石などがあるが、橘南溪の紀行文にもあるあられ状方解石（俗称あられ石、ただし Aragonite でない）をとった。

岐阜県〔苗木石〕苗木地方をひかえ、トパズ、サファイヤ、黒水晶、長石、錫石、フェルグソン石、恵那石等があり、そのほかにも白川の輝水鉛鉱、神岡鉱山の緑鉛鉱、魚眼石、珪灰鉄鉱、洞戸鉱山の透輝石とひしめき合っている。苗木石は変種シリコンと決り、当初のような名声を失墜したとはいえ、北投石とならんで日本の鉱物学が自主的になった記念塔ともいうべきもので、これをおいては他にない。根尾の菊花石は郷土の石としては申分ないが、他とのつり合から省いた。

静岡県〔イネス石〕伊豆半島以外に目ぼしい産地がなく、伊豆半島に多産する沸石類にもこれといって特定なものがない。最後に河津鉱山の自然テルルとイネス石が残ったが、自然テルルが手稲鉱山と伯仲しているのに比し、イネス石は他の産地を押し、しかもこの県にはほかにも清越、湯ヶ島の二鉱山からも産するのに鑑みこれにきめた。

愛知県〔カオリン〕カオリン等を代表とするには不満の方もあろうが、何といっても窯業の中心は愛知県であり、その根源もこのカオリンにあるので、歴史的、経済的の意義は大きい。あまり地味で適当でないというなら、田口鉱山のパイロクスマンガン石などはどうであろうか。同鉱山の新鉱物吉村石もよいが、これは横式産地の岩手県に及ばず、横須賀の横須賀石は当県内に横式産地があるとはいふものの、これもまた地味すぎる。その点、当地での名産、ゴス土や高師小僧（豊橋市高師ヶ原がその名のおこり）も同様である。

滋賀県〔トパズ〕岐阜県でわざと除外しておいたトパズを田上山の名産としてここへもって来た。事実、発見の歴史は田上山の方が苗木地方に先んじている。この県ではほかに田上山のチンワルド雲母と天然記念物たる石山寺の珪灰石がある。

三重県〔螢石〕石榑（イシグレ）のガドリ石、透閃石、螢石と考えて来て、やはり緑紫の鈍じた美しいこの地の螢石が勝を占めた。鉱物に興味をもたなかったら「榑」などという字には一生お目にかかれなかったであろう。

京都府〔桜石〕古くから有名な大文字山の褐れん石もわるくないし、新鉱物たる河

辺石もこの地方を代表する価値はあるが、桜天満宮の桜天神の普遍性には及ばない。少くとも天然記念物に指定されるほどのものは、やはり郷土の誇りでもあり、いわんや京都府ではここ以外にも、大文字山、相楽郡各地から立派な桜石を産するのであるから、桜石こそ京都の名石というにふさわしい。

**奈良県**〔辰砂〕古都、奈良にかける枕言集「青丹よし」の丹(ニ)は辰砂の顔料を指すといわれているほど、先づ文句のないところであろう。ほかに二上山麓のぎくろ石(金剛砂)がある。

**和歌山県**〔サニジン〕ほかにあまりなく、最近太地のサニジンが海外の愛鉱家から熱望されはじめて来たことからこれをえらんだ。

**大阪府**〔鋭錐石〕ここは大いに困ったが、四条隈の奥、三井高原に多量に鋭錐石を産することからこれを代表とした。北部の能勢町にはいろいろ興味ある鉱物を産するが、代表とするにはチト不足である。

**兵庫県**〔自然蒼鉛〕生野鉱山の自然蒼鉛は福井県赤谷の自砒とならんで古くから鉱物組標本の花形であった。その思い出をここに生かしたが、ほかに同鉱山の新鉱物、生野鉱があり、また中瀬鉱山の見事な自然金、新鉱物中瀬鉱、夏目鉱山の紅砒ニッケル鉱、ゲルスドルフ鉱と候補にはこと欠かない。しかも、最近すばらしい新鉱物が多量に産出することが判明したが、これは今のところ出すに出されぬ事情にある。或は将来これがとって替ることになるかも知れない。

**鳥取県**〔人形石〕新鉱物でありながらわが国におけるウランの主鉱石であるという特殊な条件は、いくら黒い粉でパットしないからといって、これをとり上げないわけには行かない。ほかに藤屋の紫水晶、日野地方のクロム鉄鉱がある。

**島根県**〔碧玉〕勾玉の原石で有史以前の発見にかかるとあっては玉造の碧玉がすべてに優先する。ほかに天然記念物の松代鉱山のあられ石や、鶴峠鉱山の天青石などあっておいしいのだが。

**岡山県**〔鏡鉄鉱〕下徳山の鏡鉄鉱は産地が僻地であることに多少の難点はあるが、結晶の美しさ、量の多いこと、砂川博士のおつむりのように輝いた表面にただよう皺(これをなん Screw dislocation と呼びける)、やはりこれがよろしい。本来なら三石のパイロフィライトをとりたいたのであるが、これは特産に乏しい隣県広島にゆづることにした。ほかに三吉鉱山の砒銅ウラン石がある。

**広島県**〔パイロフィライト〕この県はいろいろの鉱物を産する割に特産に乏しい。勝光山のパイロフィライトをあげておろすが、ほかに同所のダイアスポアやディカイトなどがあるが、いずれにしても五十歩百歩である。

**山口県**〔輝コバルト鉱〕六連島の金雲母、柳井の燐灰ウラン石等あっても、やはり長登鉱山の輝コバルト鉱にとどめをささねばならない。この鉱物が、明治の末葉からわが国に産することがわかり、多くの標本が出現していたので、日本の鉱物は実に楽しいものであった。

**徳島県**〔紅れん石〕日本の岩石学の黎明期にこの鉱物の買った役割は大きい。そして単に美しいばかりでなく、県下に広く分布している点でも推すに吝かでない。藍閃石もあるがやや弱く、また眉山のルチルは適格であるが、これは高知県にゆづった。

**高知県**〔ルチル〕いろいろの鉱物を出すこの県でありながら特産がない。透緑閃石（陽起石）の立派なものもあるが、愛媛県五良津山の方が有名であり、止むなく桑ノ川の本邦最大のルチルをとった。吉村博士の研究になる新鉱物、土佐石が正式に発表されれば、これが代って登場すべきであろう。

**香川県**〔珪線石〕ここもあまり特殊な鉱物がなく、鷲ノ山の菱沸石と猫山の珪線石ぐらいのものである。菱沸石は各地方から中々美しいものを産するので必ずしも、この名産とはいいがたく、かつて耐火材として採掘されたという歴史をもつ珪線石が残った。そして、このように多量の珪線石を産したところはわが国では他にない。生物なら猫より鷲の方が強いのだが、鉱物だから之でもよいのである。

**愛媛県**〔輝安鉱〕ここは又、五良津山の透緑閃石、別子の藍晶石で、波方の波方石、大島の大山石等多々あるが、伝家の宝刀、市ノ川鉱山の輝安鉱が一閃するや、それ等は勿ち懾伏せざるを得ない。落選候補の一つぐらいは隣県へ廻してやりたいのだが。

**福岡県**〔紅雲母〕天然記念物の珪化木（名島の帆柱石）が相当に有力であったが、紫石という名で古くから親しまれ、故岡本要八郎先生に県下の名石と折紙をつけられた長垂の紅雲母には一籌を輸さねばならない。梅花石も名石の資格充分であるが他との振合い上、割愛した。

**佐賀県**〔輝石〕西ヶ岳の輝石と、杉山の緑柱石と二つの候補をたてたが、どちらもこの県の名産とまで行かない。結局、古くから有名な輝石をとった。

**長崎県**〔磁鉄鉱〕野母半島の石綿、波佐見のたんぱく石などもよろしいが、緑泥片岩中に散点する磁鉄鉱の美しい結晶は彼杵（ソノキ）地方一帯に分布し、古くから人口に膾炙している。

**熊本県**〔鱗珪石〕故岩崎重三先生の著に大正のはじめ、イディンクス博士と石神山を訪れた時、博士がこの安山岩中に産する鱗珪石の結晶の見事さに感嘆したという記事があったのを子供心におぼえている。それから50年を経た今日でも石神山の鱗珪石は世界的なものであることにかわりなく、そしてこの鉱物は世界のいずれの産地でも微小なものなのである。ほかにこの県で名高いのは金峰山の藍鉄鉱であるが、これは栃木県の代表としてすでに登場している。

**大分県**〔斧石〕尾平、木浦の両鉱山をひかえたこの県は尾平の斧石、ダンブリ石、螢石、木浦のエメリー、スコロド石、ベスブ石、異極鉱などあり、さらに若山鉱山の針ニッケル鉱も満更らでもない。しかし、何とんでも尾平鉱山の斧石の結晶の見事さ。これは鉱物の形態美の真髄を見せてくれたものといわねばならぬ。これとほぼ対等の偉力をもつものはダンブリ石であるが、二兎は追えず、これは宮崎県にゆづることにする。

宮崎県〔ダンブリ石〕ここは土呂久鉱山の斧石とダンブリ石が最も強力な候補で、どちらをとってもよい。しかし、大分県の代表に斧石をえらんだ以上、こちらはダンブリ石を採用するが、之が逆になっても別に不自然を感じないくらいである。

鹿児島県〔大隅石〕本会代表益富寿之助博士の手によって学界に紹介されたこの可憐な董青色の美しい結晶は、湊秀雄博士、都城秋穂博士の研究を経て、当県の古名に因んだ名がつけられた。正にこれにすぎない代表はないであろう。しかし一方、奄美大島の大和鉱山から見出された世にも美しい翠緑色の新鉱物、原田石はその成分もバナジンを主とする珍らしいものであり、誠にすてがたい。なお、これに伴うバナジンぎくろ石のゴールドマン石(この地のものは多量にマンガンを含む)、さては入来鉱山のバルカン鉱(もとワイス鉱とされていたもの)も学術的にはきわめて貴重なものであり、さらに島津家累代の富強を築きあげた源となった山ヶ野鉱山や串木野鉱山の自然金、錫山鉱山の錫石なども薩摩藩の名産であり候補の一に加えたい。要するにこの県は候補が多すぎて頭のいたい県である。

さて以上をとりあげてみると、黄鉄鉱や方解石の名が出てこない。これはこの鉱物がわが国の各地から良いものを産するやので、一地方の名石とならないからであろう。いうなれば郷土の鉱物は土地の名士であるから、全国的に有名な——たとえば中村歌右衛門丈のような——人はその資格に乏しい。ただ、山梨県の水晶のようにどこにでも出るが、一つの地方でとくに勢力のあるものは逆に強固な地盤を培うことが出来る。

このように郷土の鉱物をあげ、しかも対立候補までならべて手の内を御覧に入れたのであるが、まだ何だかうつ手があるような気がしないでもない。幸いにして、読者の諸兄の興味が些かなりともこの郷土の石にそそがれるようだったら、何卒忌憚のない御意見をお聞かせ願いたいものである。(おわり)

## 本誌第15巻第11号 正誤表

頁	行	誤	正
表紙		岡本八郎	岡本要八郎
333	見出し	鉱脈の全貌	鉱脈の全貌
338	上より1	海淵一瀾	禅海一瀾
〃	〃 9	草香竜之介	草鹿竜之介
〃	下より1	Trigonia, Datemasamunei	Trigonia datemasamunei
345	上より14	長登鉱山現、喜多平	長登鉱山(現、喜多平
346	〃 1	されたというのが	されたというのが
347	〃 13	Mine の産の	Mine 産の
〃	〃 15	の資料	の資料
〃	下より9	I. Mincheva	i. Mincheva